

令和2年2月12日

独立行政法人日本スポーツ振興センター

広報室

第3回ユースオリンピック冬季競技大会 関連事業報告

日本スポーツ振興センター(JSC: JAPAN SPORT COUNCIL)が管理・運営するハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)では、将来有望なアスリートや競技を支援する取組を行っています。先般、スイス・ローザンヌにおいて開催された第3回ユースオリンピック冬季競技大会に関連するHPSCが行ってきた事業(競技力向上事業/戦略的強化)について、下記のとおりご報告いたします。

1 女性アスリートの強化支援

女性アスリートは、国内においてハイレベルな競技会など競い合いの場が少なく、パフォーマンスレベルを向上させる機会が限られているという現状にあるため、競技会の機会創出を中核とし、各競技の状況に合わせた指導や講習会を組み合わせるプログラムを実施する支援事業を行っています。2018年からアイスホッケーおよびスノーボード(ビッグエア、スロープスタイル)を対象として、公益財団法人日本アイスホッケー連盟および公益財団法人全日本スキー連盟に活動実施を委託のもと、事業を実施しています。アイスホッケー女子とスノーボードビッグエアの浅沼選手が金メダルを獲得、アイスホッケーNOC混合3on3女子の草間選手が銅メダルを獲得しました。

2 アスリートパスウェイの戦略的支援

複数の都道府県・県体育協会等で構成するコンソーシアムにより、各地のタレント発掘・育成事業等で才能を見出されたタレントを、広域的に効果的に育成し、タレントから年代別強化指定選手へと引き上げるための支援事業を行っています。北海道に委託し、岩手県、秋田県、山形県を合わせた4県から構成される北海道ウインタースポーツコンソーシアムでは、2017年はバイアスロン、2018年からカーリングとスケルトンを対象に追加し、事業を行いました。カーリング混合団体に銀メダルを獲得しました。

3 有望アスリート海外強化支援

将来オリンピック・パラリンピックにおいて金メダル獲得が期待されるターゲットアスリートに対し、集中的・計画的に海外で強化活動を行う支援事業を行っています。アスリートとともにコーチやトレーナーを始めとするサポートスタッフを同時に海外派遣することが特徴です。2019年より川上蒼斗選手をターゲットアスリートに選定し、SAJに活動実施を委託のもと、事業を実施しています。男子スノーボードビッグエアで銀メダルを獲得しました。

4 次世代ターゲットスポーツの育成支援

将来オリンピック・パラリンピックにおいてメダルの常連となる新たな種目を増やすため、育成・強化システムの確立を目指す取り組みを実施しています。2019年よりスケルトン(男女)をターゲットスポーツに選定し、公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟に活動実施を委託のもと、事業を実施しています。メダル獲得はなりませんでしたが、スケルトンの臼井選手が5位と健闘しています。

5 ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク (WPN)

各地域のタレント発掘・育成事業や競技団体との連携・協働のプラットフォームを設置しており、現在34地域が加盟しています。第3回ユースオリンピック冬季競技大会には、WPN加盟のタレント発掘・育成事業から15人のアスリートが参加しました。長野県出身の高橋選手がスピードスケート1500mで銀メダル、岩手県出身の吉田選手がスピードスケートNOC混合リレーの金メダルとスピードスケート500mの銅メダルを獲得しました。